

「放射性廃棄物の地層処分について考える」(1年物理基礎・1年理数物理・2年物理探究・2年理数物理 α β)

3月7日(金)の2・3限に、と原子力発電環境整備機構(NUMO)から講師をお招きし、原子力発電所から出される核のゴミ「高レベル放射性廃棄物」の地層処分についての出前授業をしていただきました。1月から物理基礎の単元「エネルギーの利用」において、原子力発電の仕組みや日本の現状、そして発電で生じる核廃棄物の問題について学んできました。今回の講演会は、高レベル放射性廃棄物の地層処分を取り仕切っているNUMOの出前授業事業を利用しました。

2限は、全員を対象に講演をしていただきました。最終処分場のイメージ動画や北海道2町村の文献調査報告のダイジェストなど、授業で扱ってこなかったことも多く、貴重な機会となりました。講演してくださった講師の「私は地層処分の是非については何も申し上げていません。正しい知識を身に付け、皆さんが判断して欲しいです」というお言葉が特に印象に残りました。

3限は、1・2年の国際理学科だけでワークショップを行いました。「ジオ・サーチゲーム」というNUMOが開発したボードゲームを用い、架空の県で最終処分場の候補地となる市町村を探すという内容でした。「地下水が多い」「津波の被害をうけたことがある」「りんごの名産地である」など書かれたカードの情報をもとに議論し、6つある市町村から候補地を3つ順位付けしました。最後は、班ごとに発表を行いました。候補地選定に求められるのは、地質的にその場所が安全に処分できる場所かどうかで、その場所の歴史的価値や根付いた産業とは関係のないと分かり、驚かされました。しかし、それらを全く無視して選定することはできず、どうバランスさせるか、どうコンセンサスを取っていくかが大事だと考えました。

遠方より来られた講師の皆様、本当にありがとうございました。

